第２部　八百津町食育推進計画

第 1 章

食育推進計画策定にあたって

1 国の食育推進に関する動向

現在の日本は、食料が豊かになり、多種多様な食材が簡単に手に入るようになっています。ライフスタイルが多様化したことで、「こ」食が増える傾向があり、伝統食や行事食などの継承がされていないといった問題などが起きています。また、食料は豊かであるのに、栄養バランスの偏った食事をとる人も少なくないことから、がん、心臓病、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が増加しています。その結果、認知症や寝たきりなどの介護を必要とする人が増え、医療費や介護給付の増大が社会的問題となっています。これらは、肥満や生活習慣病の増加、子どもの頃からの栄養バランスの偏った食事や不規則な食生活の増加、食の安全性や伝統ある食文化の喪失などを背景として、「食」を取り巻く問題が大きく関与しています。さらには、大量の食品ロス、食への感謝の心が薄れるといった問題も生じています。

このような状況のもと、国は、平成 17 年７月に食育基本法を施行、平成 18 年３月には「食育推進基本計画」を策定し、国民運動として食育を推進してきました。さらに平成 23 年４月には「第２次食育推進基本計画」、平成 28 年３月には「第３次食育推進基本計画」を策定しています。

食育基本法では、食育とは、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」と定義されています。

２　県の食育推進に関する動向

岐阜県では、食育基本法、岐阜県食育基本条例に基づき平成 19 年３月に「岐阜県食育推進基本計画（平成 19 年度～平成 23 年度）」、平成 24 年３月に「第２次岐阜県食育推進基本計画（平成 24 年度～平成 28 年度）」を策定しました。

第１次計画では、県民が「食」の大切さを考え、併せて「食」を生み出す「農」の重要性を理解して健全な食生活を実践できることを目指し、県・市町村・関係者・団体が連携し、子どもとその保護者への食育を重点的に推進してきました。第２次計画では、心身の増進と豊かな人間形成の実現を目指し、子どもから高齢者までのライフステージに応じた食育「生涯食育社会」の構築と、子どもと保護者を主軸とし、食生活や生活習慣の課題の多い青年期層（16～39 歳）を重点に食育を推進しました。

現在、「第３次岐阜県食育推進基本計画（平成 29 年度～平成 33 年度）」を策定し、岐阜県の特性を生かした食育を総合的かつ計画的に推進しています。

第 2 章

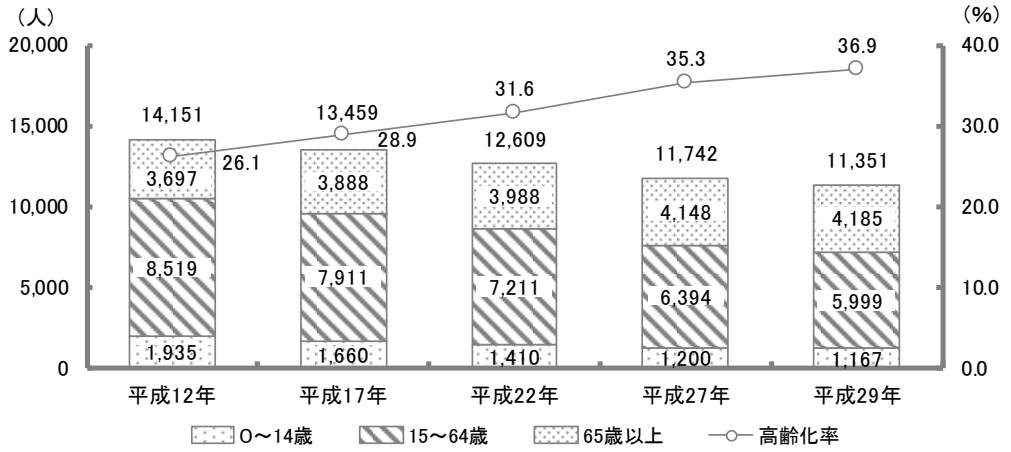
八百津町の食を取り巻く現状と課題

1 人口と世帯

（1）年齢３区分別人口と高齢化率

総人口の推移をみると、平成 12 年から平成 29 年にかけて 2,800 人が減少し、平成 29 年では 11,351 人となっています。また、年齢３区分別人口の推移をみると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）は減少していますが、老年人口は増加しており、平成 29 年の高齢化率は 36.9%となっています。

年齢３区分別人口と高齢化率の推移

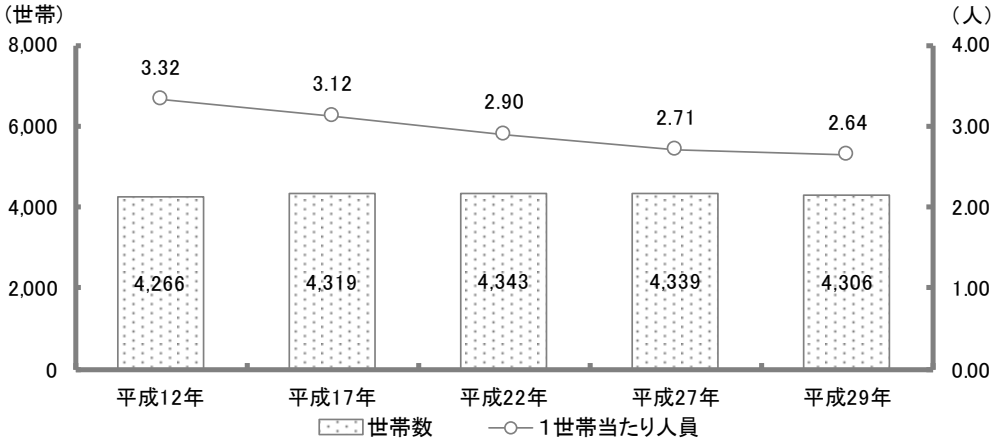


資料：住民基本台帳（各年４月１日現在）

（２）世帯数の推移

世帯数の推移をみると、減少傾向となっており、平成 29 年では 4,306 世帯となっています。また１世帯当たり人員の推移をみると、減少しており、平成 29 年では 2.64 人となっています。

世帯数の推移



資料：町民課（各年４月１日現在）

２　食を取り巻く現状

（１）産業別就業人口及び農家数の推移

第１次産業従事者の割合は、平成２年には 7.3%でしたが、平成 27 年には 3.3%に減少している状況です。第３次産業従事者の割合は、平成２年には 41.0%でしたが、平成 27 年には 53.7%に増加しています。少子高齢化や産業構造の変化から、自営業者や家族従事者の割合が低下し、雇用者の割合が高まっていると考えられます。

産業別就業人口の推移

	平成２年	平成７年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
就業者総数	7,443 人	7,169 人	6,683 人	6,358 人	5,718 人	5,327 人
第１次産業	545 人	445 人	335 人	296 人	182 人	177 人
割合	7.3%	6.2%	5.0%	4.7%	3.2%	3.3%
第２次産業	3,850 人	3,534 人	3,163 人	2,877 人	2,444 人	2,247 人
割合	51.7%	49.3%	47.3%	45.3%	42.7%	42.2%
第３次産業	3,048 人	3,190 人	3,185 人	3,166 人	3,064 人	2,858 人
割合	41.0%	44.5%	47.7%	49.8%	53.6%	53.7%
分類不能	0 人	0 人	0 人	19 人	28 人	45 人

資料：国勢調査

農家数の推移

		平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
専業農家		154	66	66	44	48
兼業農家		1,174	476	361	325	246
	第１種	50	15	12	31	6
	第２種	1,124	461	349	294	240
合計		1,328	542	427	369	249

資料：農林業センサス

３　アンケート調査結果からの現状

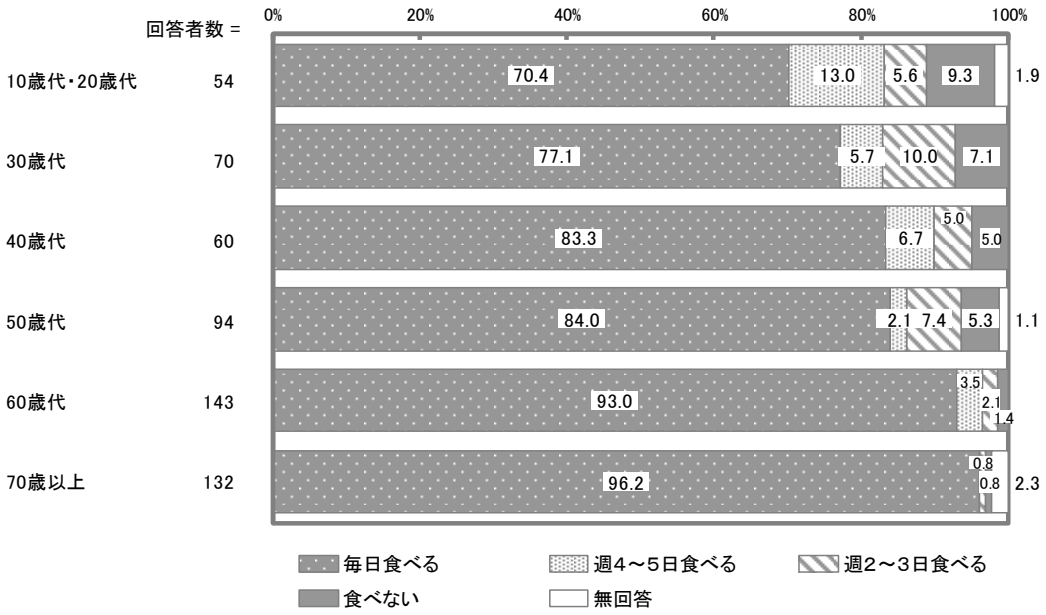
（１）アンケート調査の主な結果

①　朝食の摂取状況のについて

成人調査の年代別でみると、年齢が若くなるにつれ、「毎日食べる」の割合が低くなっています。

朝食の摂取状況のについて

【成人】



資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

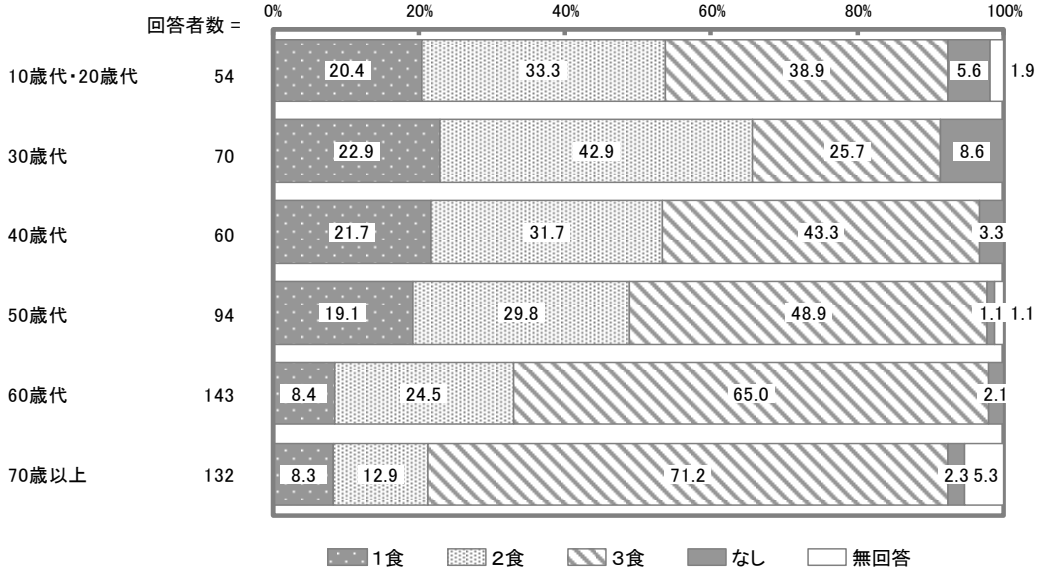
② 主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事の回数について

成人調査の年代別でみると、主食・主菜・副菜のそろった食事の回数について 10 歳代・20 歳代から 50 歳代で「１食」の割合が高くなっています。

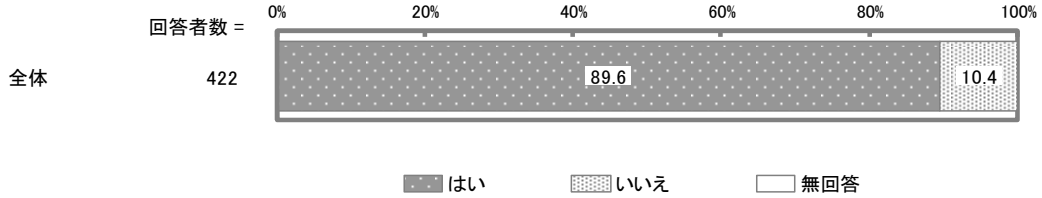
小中学生調査でみると、休日最低１食はバランスのとれた食事をしているかについて、「いいえ」の割合が 10.4%となっています。

主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事の回数について

【成人】



【小中学生】



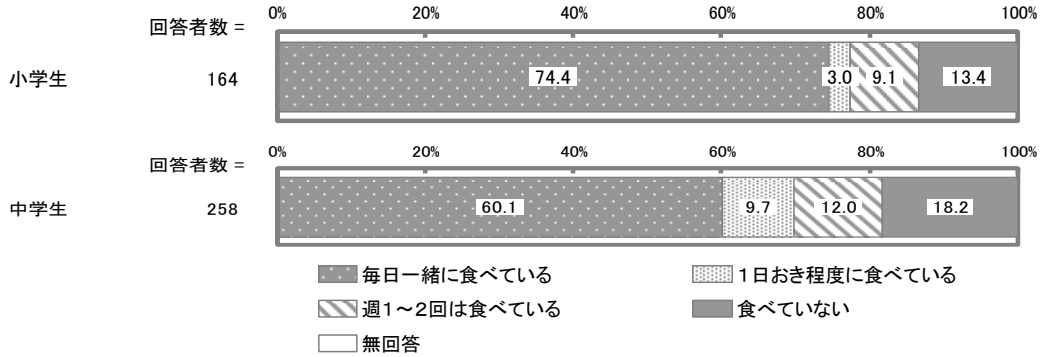
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

③ 家族や友人などと朝食を一緒に食べているかについて

小中学生調査でみると、「毎日一緒に食べている」の割合が、小学生で７割半ばとなっていますが、中学生では６割と小学生に比べ低くなっています。

家族や友人などと朝食を一緒に食べているかについて

【小中学生】



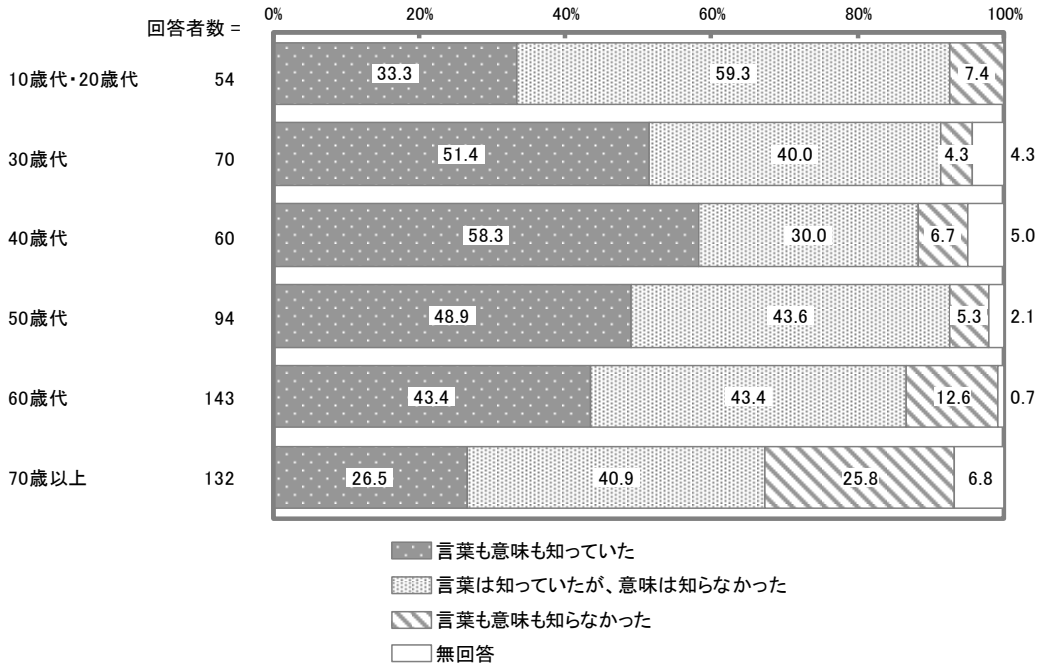
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

④ 「食育」という言葉や意味の認知度について

成人調査の年代別でみると、他に比べ、40 歳代で「言葉も意味も知っていた」の割合が高くなっています。一方、70 歳以上で「言葉も意味も知らなかった」の割合が高く２割半ばとなっています。

「食育」という言葉や意味の認知度について

【成人】



資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

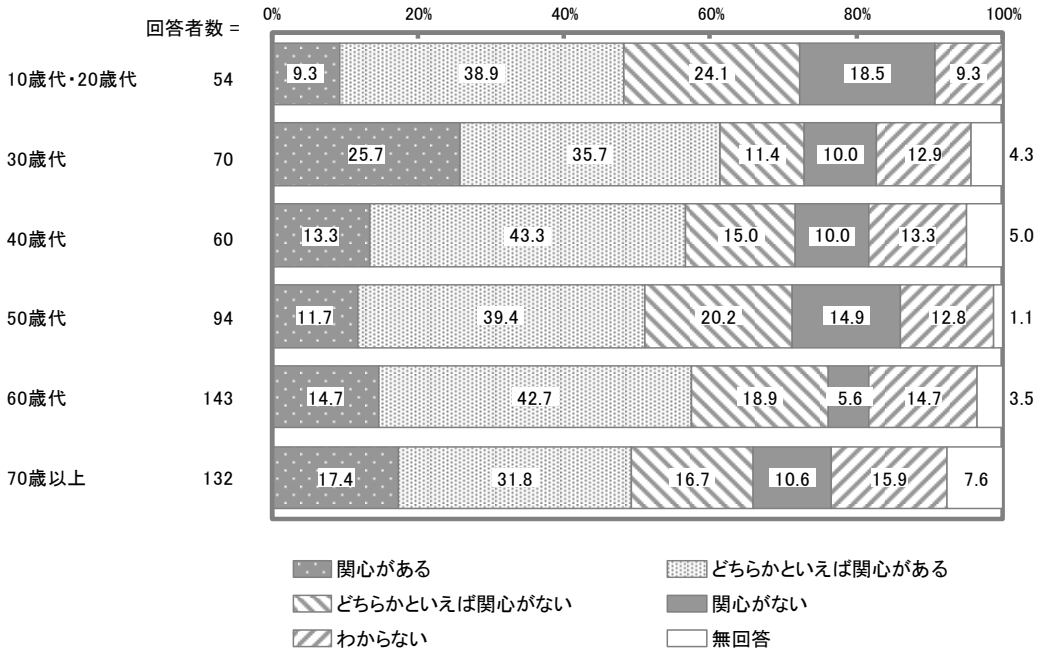
⑤ 「食育」への関心度について

成人調査の年代別でみると、他に比べ、30 歳代で「関心がある」の割合が高くなっています。また、10 歳代・20 歳代で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」のを合わせた“関心がない”の割合が高くなっています。

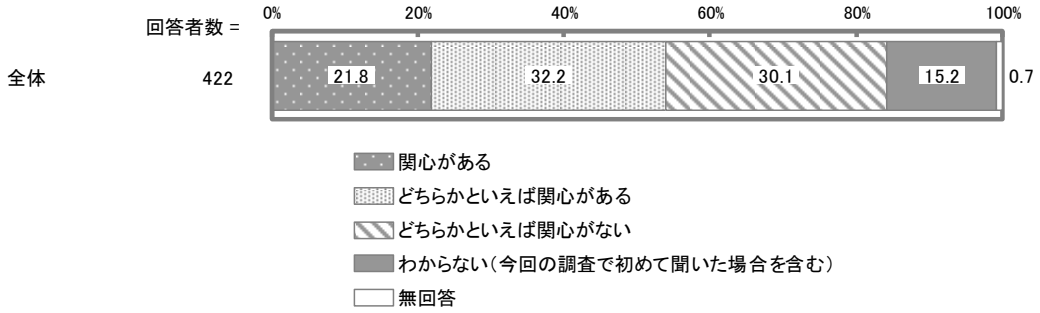
小中学生調査でみると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた“関心がある”の割合が 54.0%、「どちらかといえば関心がない」の割合が 30.1%、と「わからない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）」の割合が 15.2%となっています。

「食育」への関心度について

【成人】



【小中学生】



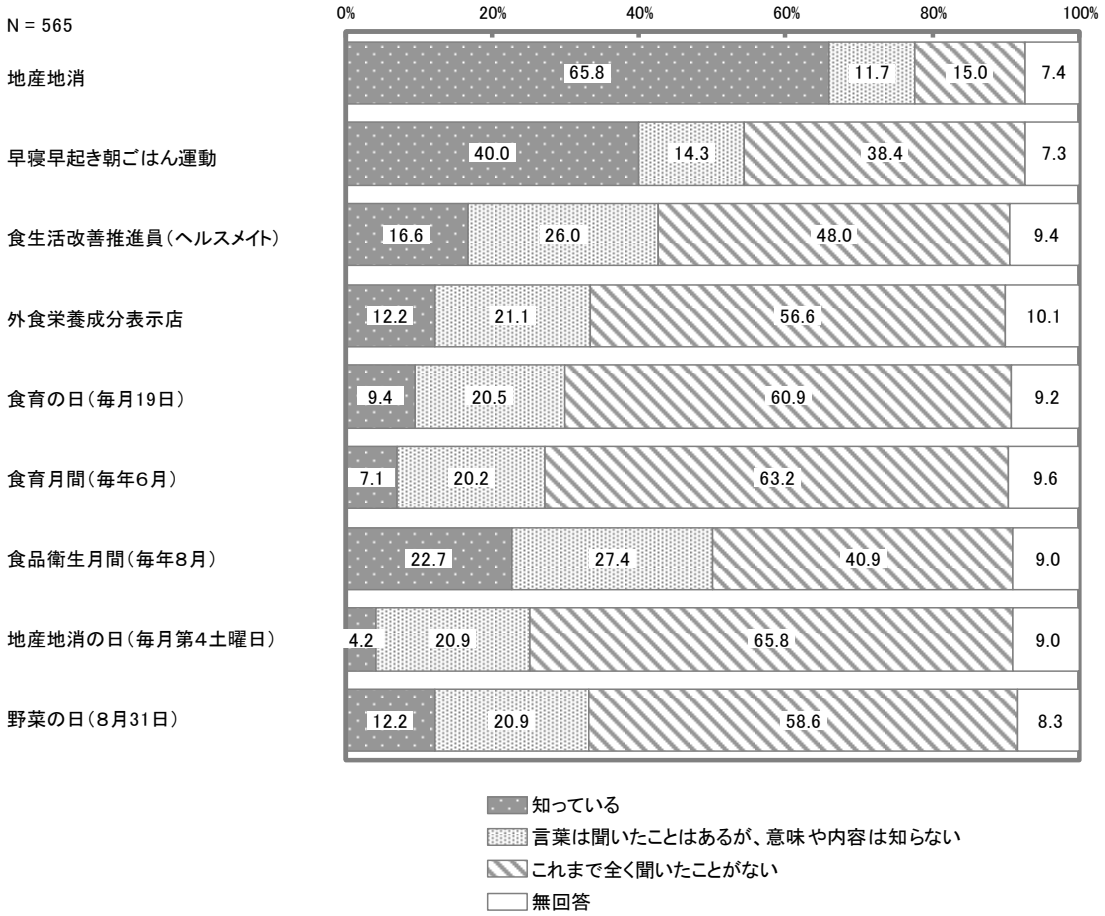
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑥ 食育の取り組みの認知状況について

成人調査でみると、『地産地消』を「知っている」の割合が高くなっています。また、『食育の日（毎月 19 日）』『食育月間（毎年６月）』『地産地消の日（毎月第４土曜日）』について「これまで全く聞いたことがない」の割合が高くなっています。

食育の取り組みの認知状況について

【成人】



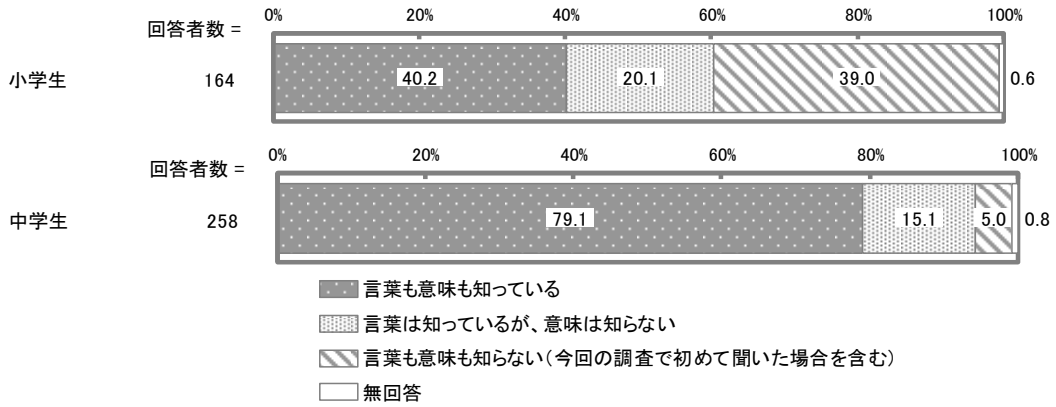
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑦ 「地産地消」という言葉や意味の認知状況について

小中学生調査でみると、中学生では「言葉も意味も知っている」の割合が約８割と高いのに対し、小学生では「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）」の割合が約４割と高くなっています。

「地産地消」という言葉や意味の認知状況について

【小中学生】



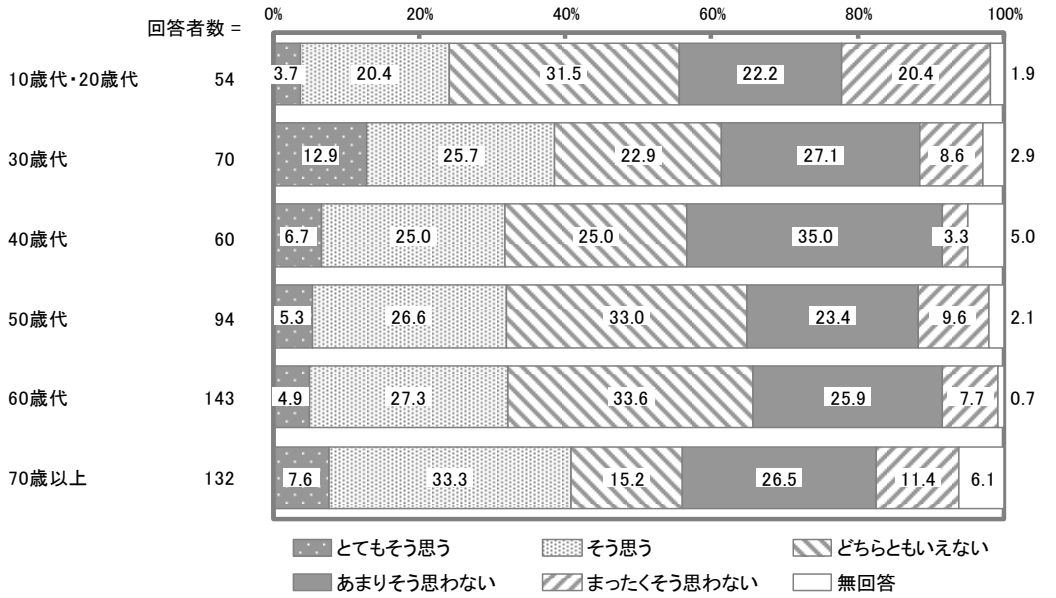
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑧ 共食※の機会があった場合に参加したいと思うかについて

成人調査の年代別でみると、他に比べ、30 歳代、70 歳以上で「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が高くなっています。

共食の機会があった場合に参加したいと思うかについて

【成人】



資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

※共食

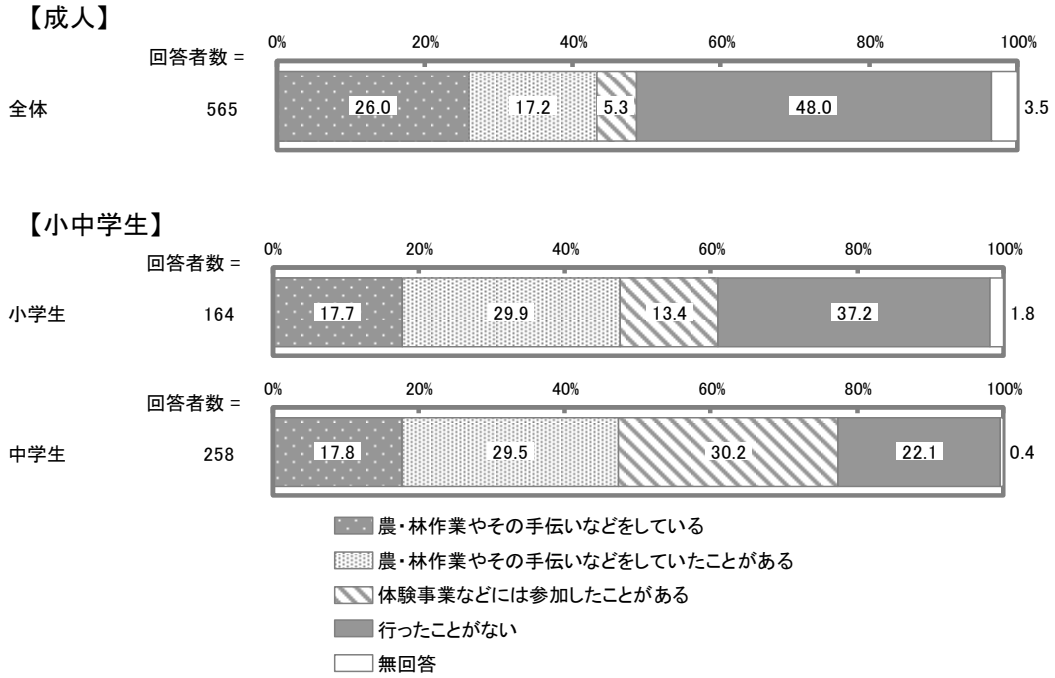
家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図る共食は、食育の原点であり、子どもへの食育を推進していく大切な時間と場であると考えられている。

⑨ 農・林業の体験の有無について

成人調査でみると、「行ったことがない」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「農・林作業やその手伝いなどをしている」の割合が 26.0%、「農・林作業やその手伝いなどをしていたことがある」の割合が 17.2%となっています。

小中学生調査でみると、「農・林作業やその手伝いなどをしている」「農・林作業やその手伝いなどをしていたことがある」の割合に大きな差はないものの、小学生で「行ったことがない」の割合が約４割と高く、中学生で「体験事業などには参加したことがある」の割合が約３割と高くなっています。

農・林業の体験の有無について

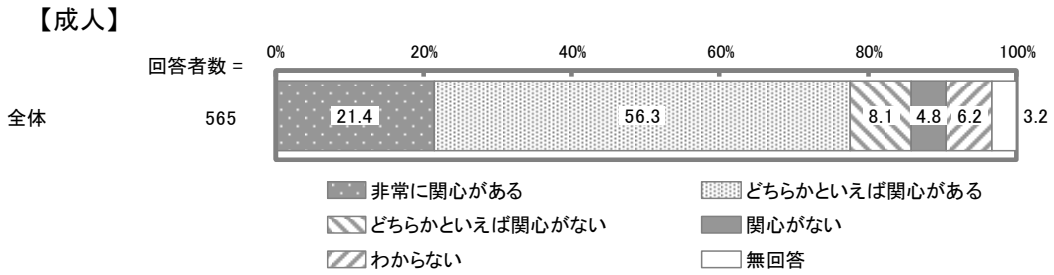


資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑩ 食の安全の関心度について

成人調査でみると、「どちらかといえば関心がある」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「非常に関心がある」の割合が 21.4%となっています。

食の安全の関心度について



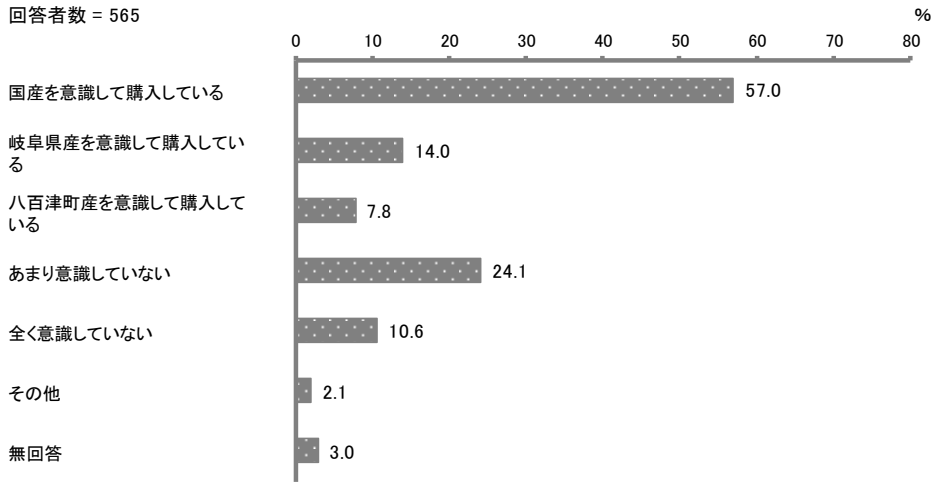
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑪ 農林水産物の産地を意識して購入しているかについて

成人調査でみると、「国産を意識して購入している」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「あまり意識していない」の割合が 24.1%となっています。

農林水産物の産地を意識して購入しているかについて

【成人】



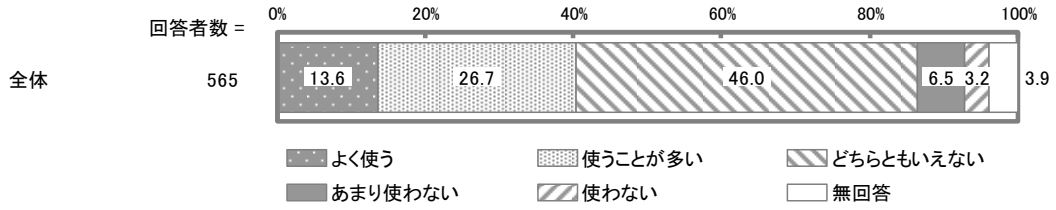
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑫ 家庭で地元産（岐阜県産）の食材の使用状況について

成人調査でみると、「どちらともいえない」の割合が 46.0%と最も高く、次いで「使うことが多い」の割合が 26.7%、「よく使う」の割合が 13.6%となっています。

家庭で地元産（岐阜県産）の食材の使用状況について

【成人】



資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

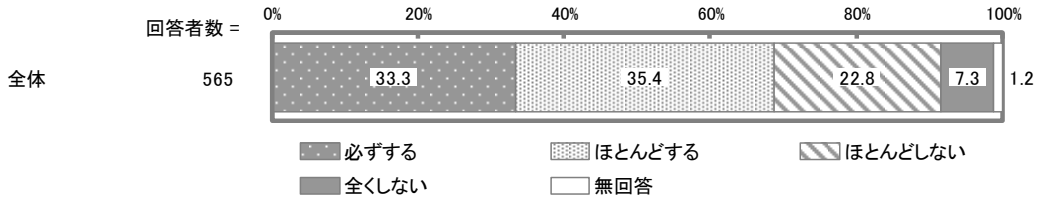
⑬ ごはんのときに「いただきます」「ごちそうさま」を言うかについて

成人調査でみると、「ほとんどする」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「必ずする」の割合が 33.3%、「ほとんどしない」の割合が 22.8%となっています。

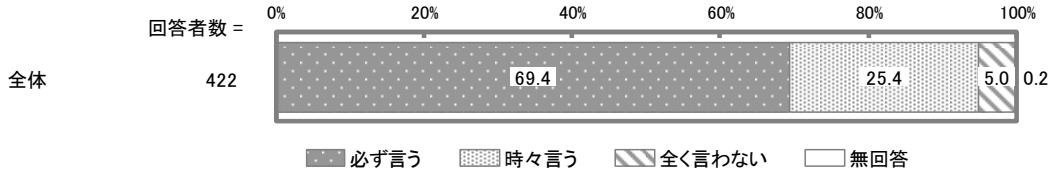
小中学生調査でみると、「必ず言う」の割合が 69.4%と最も高く、次いで「時々言う」の割合が 25.4%となっています。

ごはんのときに「いただきます」「ごちそうさま」を言うかについて

【成人】



【小中学生】



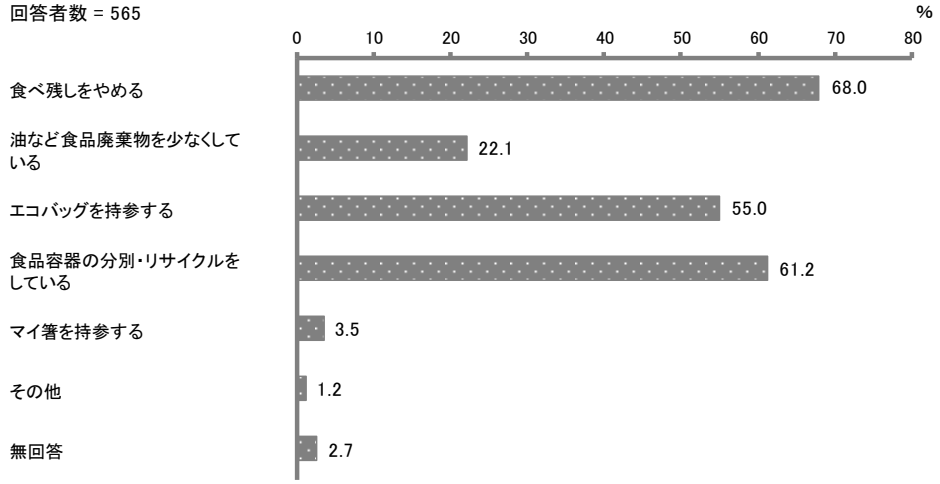
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑭ 環境にやさしい行動として、日頃心がけていることについて

成人調査でみると、「食べ残しをやめる」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「食品容器の分別・リサイクルをしている」の割合が 61.2%、「エコバッグを持参する」の割合が 55.0%となっています。

環境にやさしい行動として、日頃心がけていることについて

【成人】



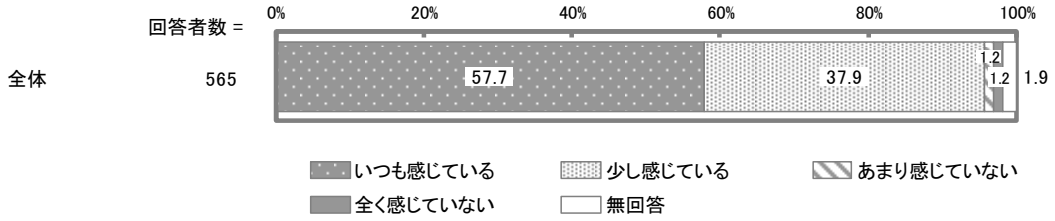
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑮ 食べ残しや食品の廃棄について「もったいない」と感じているかについて

成人調査でみると、「いつも感じている」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「少し感じている」の割合が 37.9%となっています。

食べ残しや食品の廃棄について「もったいない」と感じているかについて

【成人】



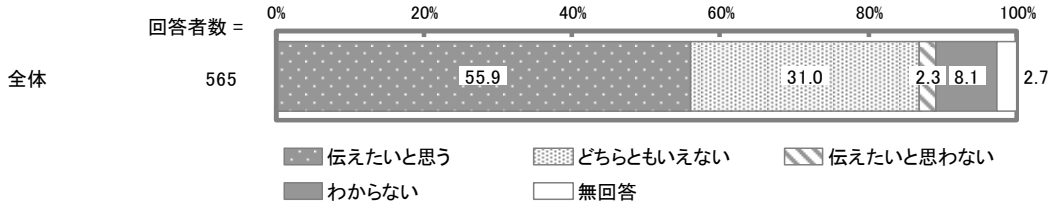
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑯ 郷土料理や伝統料理、食べ方や作法を次世代に伝えたいかについて

成人調査でみると、「伝えたいと思う」の割合が 55.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 31.0%となっています。

郷土料理や伝統料理、食べ方や作法を次世代に伝えたいかについて

【成人】



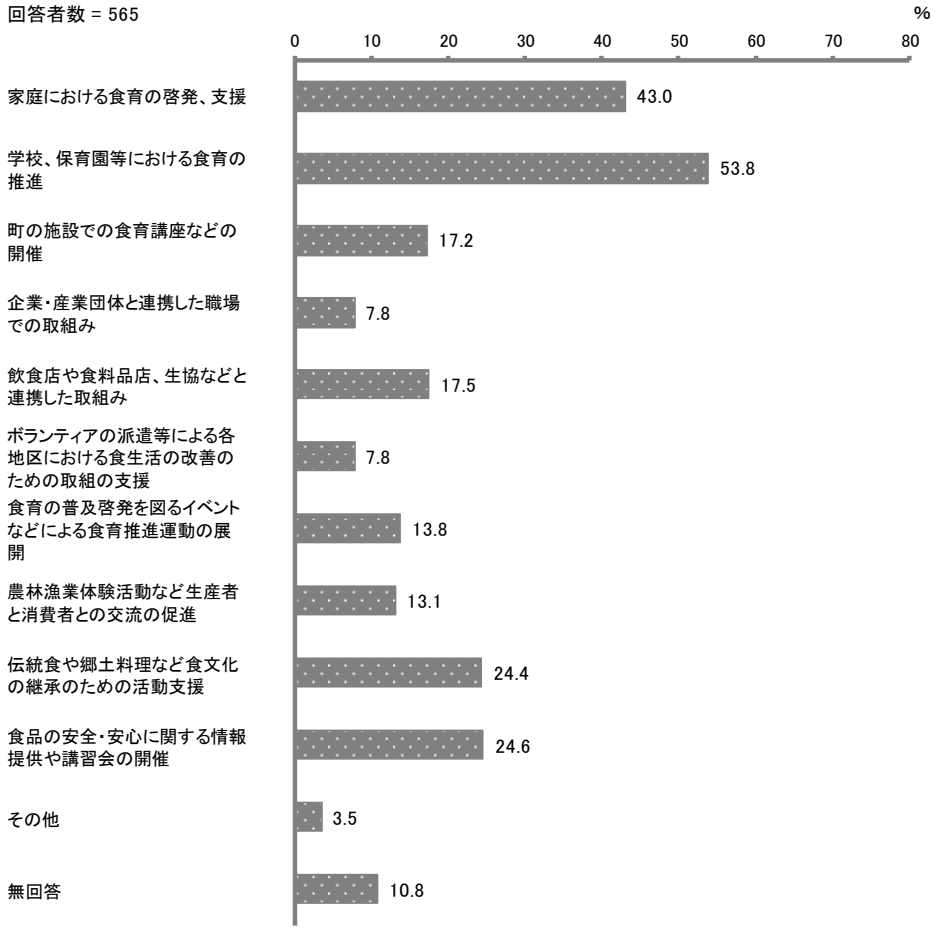
資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

⑰ 八百津町食育推進計画で重要と思う取り組みについて

成人調査でみると、「学校、保育園等における食育の推進」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「家庭における食育の啓発、支援」の割合が 43.0%、「食品の安全・安心に関する情報提供や講習会の開催」の割合が 24.6%となっています。

八百津町食育推進計画で重要と思う取り組みについて

【成人】



資料：八百津町健康づくりに関するアンケート調査（平成 30 年度）

4　八百津町の食育推進における課題

アンケート調査結果から、本町の食育についての現状を整理し、今後取り組むべき基本的課題を整理しました。

基本的課題１　食育の普及啓発について

成人アンケート調査をみると、食育の認知度は、４割程度となっており、また食育への関心度についても、成人、小中学生ともに５割程度となっています。

食育の認識だけでなく、具体的に日常生活で食育の実践が必要となります。そのため、今後も食育の普及啓発とともに、実践につなげる機会や場の充実が重要です。

基本的課題２　規則正しい食習慣について

成人アンケート調査をみると、朝食欠食者は、年齢が若くなるにつれ高くなり、特に 10・20 歳代、30 歳代で「毎日食べる」の割合が８割以下となっています。また、主食・主菜・副菜のそろった食事について、「１日１食」が 10 歳代から 50 歳代で約２割と高くなっています。

小中学生アンケート調査では、休日最低１食はバランスのとれた食事をしているかについて、「いいえ」の割合が１割となっています。

そのため、今後も規則正しい食習慣の実践やバランスのとれた食生活を身に付けるための情報提供や学習機会の充実が必要です。

基本的課題３　食に関する感謝の気持ちについて

小中学生アンケート調査をみると、食事の時に必ずあいさつをする割合が約７割となっていますが、成人アンケート調査では、約３割となっています。食に対する感謝の気持ちを育みながら、家事の手伝いや食前食後のあいさつをするなどの意識啓発を図ることが必要です。また、生産者との交流や体験学習を通じて、食への感謝の気持ちや理解が深まっていくよう配慮することが必要です。

基本的課題４　食を通じたコミュニケーションについて

小中学生アンケート調査をみると家族や友人などと朝食を「毎日一緒に食べる」の割合が６割半ばとなっていますが、「週１～２回は食べている」「食べていない」の割合も２割半ばとなっています。家族や友人等と一緒に食事をしながらコミュニケーションを持つことは、食の楽しさを実感し、心の安定をもたらします。

また、成人アンケート調査をみると、地域や所属コミュニティでの食事会への参加意向について、子育て世代の 30 歳代や、70 歳以上の高齢者で“参加したいと思う”の割合が高くなっています。新しい「共食」の考え方として、一緒に食事をとるだけでなく、料理を作る、準備をする、食について語り合うなどの食に関する体験を共有する機会も「共食」としてとらえられています。そのため、家族や友人等だれかとそろって食を共有できる機会をつくり、コミュニケーションを深め、食事の楽しさを感じることができる生活を実現していく必要があります。

基本的課題５　食文化の継承について

成人アンケート調査をみると、郷土料理や伝統食などを次世代や地域に対して「伝えたい」と思う割合が５割半ばと高くなっています。地域の食文化を次世代に継承していくために、地域の人々や団体によって、食文化を伝える料理講習会などの取り組みも行われており、引き続き、郷土料理等の地域の食文化を次世代に向け保護・継承していくことが必要です。

基本的課題６　地産地消の理解促進について

成人アンケート調査をみると、農林水産物の購入について、「国産を意識して購入している」の割合が約６割となっていますが、一方で「あまり意識していない」の割合が２割半ばとなっています。また、普段家庭で地元産（岐阜県産）の食材を使っている人の割合が４割程度となっています。

小中学生アンケート調査をみると、地産地消の認知度については、中学生で９割以上となっていますが、小学生では６割となっています。

子どもの時から生産者と消費者の相互理解につながる地産地消の理解促進が重要です。また、地元の食への理解を深める体験活動や地産地消の場などをさらに拡大し、参加を促すことが必要です。

基本的課題７　食の安全と環境に配慮した食生活について

成人アンケート調査をみると、環境にやさしい行動として、日頃心がけていることとして「食べ残しをやめる」「食品容器の分別・リサイクルをしている」「エコバッグを持参する」の割合が高くなっています。

また、食べ残しや食品の廃棄に関して、「もったいない」と感じている人の割合が９割以上となっています。

無駄や廃棄の少ない食事づくりを行うなど、食生活における環境への影響に関する理解をさらに深め、環境に配慮した食生活の実践に向けた支援が必要です。

第 3 章

計画の基本的な考え方

本町の食育推進計画は、基本理念である「笑顔で寄り添う福祉と健康のまち　やおつ」の実現を図るため、国や県の食育推進に関する考え方を踏まえつつ、本町の基本的課題から、４つの基本目標と、この基本目標を達成していくための基本施策を定め、食育を推進していくための取り組みを実践していきます。

1　基本理念

町民一人ひとりが望ましい食生活を営む能力を身につけ、食を通じた豊かな心を育むとともに、家族や地域づくりを図り、町民が笑顔で寄り添いながら食育を推進していくことを目指します。

［ 基本理念 ］

2　基本目標

基本目標１　健全な食生活の習得と実践

医食同源という言葉があるように、食べることは健康に生きることにつながります。バランスのとれた食事を適量とることは、健康な生活を維持するために不可欠です。

現代は飽食の時代と言われ、食料は豊かになり、食に関する情報もあふれています。しかし、バランスのとれた食事を実践できていない人も多くいます。

栄養バランスの取れた健全な食生活を実践するために必要な知識の普及を図り、食からの健康づくりを推進します。

基本目標２　食を通じた豊かな心の育成

現代は、ライフスタイルの多様化により、家庭での食事の風景も変わってきています。

また、単身世帯の増加により、孤食※の問題も浮き彫りになっています。それぞれのライフステージに応じた課題に対し、子どもから成人、高齢者に至るまで、すべてのライフステージにおいて食育を推進します。

また、家族や友人と食事をとることは、豊かな心を育むことにつながります。食を通じたコミュニケーションを図る施策を推進するとともに、交流を通じて、日本の食文化や料理などを伝えます。

基本目標３　食材などに向き合う意識の醸成

日常生活では食品を購入するだけで、多くの町民は生産や加工の現場を知りません。そのため、食が自然の恵みであること、多くの人がかかわって食品ができていることを忘れがちです。食に対する感謝の気持ちを育てられるよう、体験活動の充実を図ります。

また、資源の本来の価値を大切にする「もったいない」の心を持って、食べ残しや食品の廃棄を減らすといった環境に配慮した取り組みを推進します。

基本目標４　食育を推進する仕組みの整備

情報化が進んだ現代社会では、食に関する情報も社会に氾濫しています。町民が、健全な食生活を実現できるよう、食に関わる正しい知識の周知や、町民が求めている食育に関する情報が取得しやすい情報環境の整備を進めます。

また、すべての人が食育を実践できるよう、地域の団体や事業者と連携をすすめ、食育の輪を広げるよう努めます。

※孤食
家族が不在の食事で、ひとりで食べること。

３　施策の体系

〔 基本理念 〕

笑顔で寄り添う福祉と健康のまち　やおつ

〔 基本目標 〕 〔 基本施策 〕

- 基本目標１　健全な食生活の習得と実践
  - （１）健康に配慮した食生活の推進
  - （２）体験を通じた食の理解促進
- 基本目標２　食を通じた豊かな心の育成
  - （１）心豊かな食育の推進
  - （２）コミュニケーションを通じた食文化の継承
- 基本目標３　食材などに向き合う意識の醸成
  - （１）地産地消の推進と食への感謝
  - （２）食の安全の確保
  - （３）環境への配慮の促進
- 基本目標４　食育を推進する仕組みの整備
  - （１）食育を充実させるための情報発信の推進
  - （２）地域における食育活動の支援

第4章　施策の展開

基本目標１　健全な食生活の習得と実践

（１）健康に配慮した食生活の推進

施策の方向

朝食の欠食をなくすことや、バランスのよい食事とることの重要性を周知啓発するなど、規則正しい食生活を推進します。

また、町民の食に関する知識や理解を深め、望ましい食生活を実践できるよう、情報提供を進めます。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 朝食の欠食を無くします。
- 栄養バランスのとれた食生活を実践します。
- 「食」に関する知識と理解を深め、自らの食を自らの判断で正しく選択します。

○ 行政の取り組み

- 朝食の質の向上やバランスの良い食生活についての周知、啓発に取り組みます。
- 食生活からの健康づくりを支援します。
- 広報やホームページ、イベント等を通じて、食の安全に関する情報提供の充実を図ります。

数値目標

項目	指標	現状値	目標値
朝食を欠食する人	小学生	３人	０人
	中学生	８人	０人
	20、30 歳代男性	33.9%	15%以下
	20、30 歳代女性	16.1%	5%以下
	40、50 歳代男性	16.4%	15%以下
食育に関心のある人の割合	関心がある人の割合（成人）	15.6%	25%以上
	関心がある人の割合（小学生）	25.6%	30%以上
	関心がある人の割合（中学生）	19.4%	25%以上

［ ワーキングからの意見 ］

○ 朝食は小中学生ともほとんどが毎日食べているが、内容が問題である。規則正しい食事、バランスの良い摂り方が体を快適にすることをもっと伝えていくことが大切だと思う。

○ 親が朝食を食べない、食事をつくらないため、朝食を取らない子どもがいるのではないか。

（２）体験を通じた食の理解促進

施策の方向

家庭が食育において重要な役割を担っていることの理解が得られるよう、保育所、学校での料理の体験をはじめ様々な機会における適切な食育の実践、知識の啓発などに積極的に取り組んでいくことを推進します。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

・食体験の学習の場や農林業体験の場へ積極的に参加します。

○ 行政の取り組み

・保育所、幼稚園、学校における、収穫体験や農業体験の充実を図ります。
・食育教室、栄養教室の開催を支援します。

数値目標

項目	指標	現状値	目標値
農・林業等の体験をしたことがある人の割合	「農・林作業やその手伝いなどをしている」「農・林作業やその手伝いなどしていたことがある」を合わせた割合（成人）	43.2%	50%以上
	「農・林作業やその手伝いなどをしている」「農・林作業やその手伝いなどしていたことがある」を合わせた割合（小学生）	47.6%	55%以上
	「農・林作業やその手伝いなどをしている」「農・林作業やその手伝いなどしていたことがある」を合わせた割合（中学生）	47.3%	55%以上

基本目標２　食を通じた豊かな心の育成

（１）心豊かな食育の推進

施策の方向

すべてのライフステージに応じた食育に取り組むとともに、食の楽しさを伝え、豊かな心を育む食育を推進します。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 家族や友人とともに食事づくりや食事をとることで食事を楽しみます。
- 保護者自身が「食」についての正しい知識や調理技術を身につけ、家庭での食育を担います。
- 地域の伝統行事に参加して、食文化に出会う機会を増やします。

○ 行政の取り組み

- 子どもや保護者に対する食育活動の更なる推進を図ります。
- 青年・成人に対する食育を推進します。
- 高齢者に対する食育を推進します。

［ ワーキングからの意見 ］

○ 核家族が多くなってきており、郷土料理の伝承ができていないのではないか。

（２）コミュニケーションを通じた食文化の継承

施策の方向

「食育の基本は家庭」であるため、家族や友人等との食を通じたコミュニケーション（共食）により、豊かな心を育むとともに、食文化の継承を図ります。

また、日本の食文化を育んできた料理や背景を伝え、本物の味がわかる子どもを育成する取り組みを推進します。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 子どもの頃から様々な行事を通じて、食文化に触れる機会を増やします。
- 家族や友人とともに食事をつくることや食事をとることでコミュニケーションを図ります。

○ 行政の取り組み

- 家族や仲間との共食の大切さの周知・啓発に取り組みます。
- 地域での共食の機会づくりを支援します。

数値目標

項目	指標	現状値	目標値
共食の割合	朝食を家族や友人等と毎日一緒に食べている人の割合（小学生）	74.4%	80%以上
	朝食を家族や友人等と毎日一緒に食べている人の割合（中学生）	60.1%	65%以上

(※国・県の指標は「平日、朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数の増加」であり、町の調査結果とは比較できない。)

基本目標３　食材などに向き合う意識の醸成

（１）地産地消の推進と食への感謝

施策の方向

地元でとれる農林水産物の消費や利用を促進するため、地元産農林水産物のＰＲを推進するとともに、生産者、地場産物や旬の食材に関する情報提供を充実し、地産地消を推進します。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 地元の食材を意識して食材の購入をします。
- 食が自然の恵みであること、多くの人がかかわって食品ができていることを知り、食に対する感謝の気持ちを持ちます。
- 食べ物の旬を知り、栄養価が高く環境負荷の少ない旬の食材の購入をします。

○ 行政の取り組み

- 学校給食における地元産農産物の更なる活用を推進します。
- 地産地消に関する情報提供や体験機会の充実を図ります。
- 子どもの頃から地元の食材や旬の食材にふれて、食事づくりや食事をする機会の推進を図ります。

数値目標

項目	指標	現状値	目標値
地産地消の認知度	地産地消という言葉も意味も知っている人の割合（成人）	65.8%	70%以上
	地産地消という言葉も意味も知っている人の割合（小学生）	40.2%	50%以上
	地産地消という言葉も意味も知っている人の割合（中学生）	79.1%	85%以上

（２）食の安全の確保

施策の方向

生産から消費にわたる食の安全・安心の確保に向け、生産者や事業者等における法令順守（コンプライアンス）の徹底を促進します。また、消費者も、子どものころから食品の衛生面をはじめとする食に関する関心を高め、安全な食材を選択できる力と正しい知識を身につけることができるよう啓発します。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 食の安全や安心について学びます。
- 食べたもので体はできている事を実感します。

○ 行政の取り組み

- 食の安全・安心に関する知識の普及と啓発に努めます。
- 食の情報を得る力の向上をめざす講座等を開催します。

［ ワーキングからの意見 ］

○ 地産地消について学校でも話をしているが、よく理解されていないようだ。

○ 小中学生に対し、食に関する指導を行っているが関心を持っている子どもが少ない。

○ 食育の日については、毎日の献立表にのせているが、子どもたちになかなか浸透していないようだ。

（３）環境への配慮の促進

施策の方向

生産者と消費者の顔の見える関係づくりの機会を提供することで、食に対する感謝の心を育むとともに、生産者の励みになる取り組みや生活環境に配慮した取り組みを推進します。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 生ごみのたい肥化など、環境に配慮した取り組みを進めます。
- 食べ残しを減らすため自分に適切な量を把握し、買い過ぎや作り過ぎに注意します。
- 食品が食べられる状態で廃棄される「食品ロス」を減らします。

○ 行政の取り組み

- 環境に配慮した食生活の普及啓発に取り組みます。
- 食品リサイクルの促進を図ります。
- 食品ロス削減の取り組みを図ります。

基本目標４　食育を推進する仕組みの整備

（１）食育を充実させるための情報発信の推進

施策の方向

食育を適切に浸透させていくため、町民の生活に密着した活動を行っているボランティアなどの取り組みが活性化されるよう、環境の整備や情報の共有化を図ります。

食育の情報が簡単に取得できる仕組みや、適切な食習慣について自ら確認できるような情報環境の整備を図ります。

主な取り組み

○ 行政の取り組み

- 食育活動を行っているボランティアなどの取り組みが周知されるよう、情報発信の充実を図ります。
- 食育の情報が簡単に取得できる仕組みや、適切な食習慣について自ら確認できるような情報環境の整備を推進します。

（２）地域における食育活動の支援

施策の方向

身近な地域で食育を推進する人材を育成するとともに、行政だけでなく、事業者、関係団体やＮＰＯ、ボランティアなどの組織による様々な取り組みを活かしたネットワークを推進し、食育を地域に根づかせていく取り組みを進めます。

主な取り組み

○ 町民一人ひとりの取り組み

- 食育活動に積極的に参加します。

○ 行政の取り組み

- イベント・PR 等の更なる推進と周知を図ります。